

# 2019年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0準拠版)

2020年9月3日

ECCアーティスト美容専門学校

# 目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	i	基準5 学生支援.....	xxvii
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	ii	5-16 就職等進路.....	xxix
1-1 理念・目的・育成人材像.....	iv	5-17 中途退学への対応.....	xxx
基準2 学校運営.....	vi	5-18 学生相談.....	xxxii
2-2 運営方針.....	vii	5-19 学生生活.....	xxxiv
2-3 事業計画.....	viii	5-20 保護者との連携.....	xxxviii
2-4 運営組織.....	ix	5-21 卒業生・社会人.....	xl
2-5 人事・給与制度.....	x	基準6 教育環境.....	xlii
2-6 意思決定システム.....	xi	6-22 施設・設備等.....	xliv
2-7 情報システム.....	xii	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	xlv
基準3 教育活動.....	xiii	6-24 防災・安全管理.....	xlvi
3-8 目標の設定.....	xiv	基準7 学生の募集と受入れ.....	xlvi
3-9 教育方法・評価等.....	xvi	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	l
3-10 成績評価・単位認定等.....	xviii	7-26 入学選考.....	lii
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	xix	7-27 学納金.....	liv
3-12 教員・教員組織.....	xxi	基準8 財務.....	lv
基準4 学修成果.....	xxii	8-28 財務基盤.....	lvii
4-13 就職率.....	xxiii	8-29 予算・収支計画.....	lix
4-14 資格・免許の取得率.....	xxv	8-30 監査.....	lxi
4-15 卒業生の社会的評価.....	xxvi	8-31 財務情報の公開.....	lxii

<b>基準 9 法令等の遵守</b> .....	<b>lxiii</b>
9-32 関係法令、設置基準等の遵守 .....	lxiv
9-33 個人情報保護 .....	lxvi
9-34 学校評価 .....	lxviii
9-35 教育情報の公開.....	lxx
<b>基準 10 社会貢献・地域貢献</b> .....	<b>lxxi</b>
10-36 社会貢献・地域貢献 .....	lxxiii
10-37 ボランティア活動 .....	lxxv

# 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	2019年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決策
<p>山口学園の理念 実践的な専門知識の教育と技能の習得を通じて、社会が求むところの高度専門職業人の養成、且つ、豊かな社会、平和と幸福を希求してやまないところ豊かな社会人の育成をはかる。</p> <p>教育目的 本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、美容・健康・芸術の専門教育と、技能教育を通じて美と健康の知識と豊かな創造性、時代をリードする進取の精神、及び芸術的センスに富んだ実社会に有用な人材の育成を目的とする。もって人々の文化的生活の向上に寄与したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度学校運営方針 『自主性・創造性・向上心が高い美容技術者の養成！』 圧倒的な教育力（国際力、コンテスト、検定実績）+『高い人間力』→企業・社会で活躍できる人材の輩出</li> <li>・教育力強化 専門力：ICT教育・アクティブラーニング導入、ピアリーダー制度展開 国際力：IBP強化、オンライン英会話活用、混ぜる教育拡充 人間力：自己啓発PG導入、実践行動学導入</li> <li>・進路課強化 業界就職質の向上、強化コースの設定と対応、企業連携強化、海外就職ルート開拓</li> </ul>	<p>2019年度コンテスト実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジアネイルフェスティバル」 全日本理美容学校対抗ネイル選手権 1位、ネイティフル部門 1位/2位</li> <li>・「第14回IBF主催 フォトコンテスト」 1位</li> <li>・「全日本美容専門学生選抜 ヘアメイク選手権大会」1位</li> <li>・「ICAMフォトコンペティション ビューティ部門、アート部門」1位</li> </ul> <p>2019年度検定実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「JNECネイリスト技能検定2級」 100%</li> <li>・「JNECネイリスト技能検定1級」 68.4%</li> <li>・「国際アイラッシュ検定1級」 95.5%</li> <li>・「JBMAメイクアップ技術検定Basicコース」 100%</li> <li>・「JBMAメイクアップ技術検定プロフェッショナルコース」 80.1%</li> <li>・「エステティシャンセンター試験資格」 100%</li> <li>・コースごとに卒業要件、DP作成</li> <li>・退学者ゼロに向けて、退学者分析、無断欠席・長期欠席者へ担任 教務課スタッ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテスト、検定のさらなる実績向上 → コンテスト/検定の目標水準の見直し、明確化と対策授業等の強化</li> <li>・DPの遂行に当たり、教育力のさらなる向上が求められる。 → コースデザイン会議にて対策の継続協議。</li> <li>・進級対象者の退学率83.1% 実践行動学を1年生全クラスに導入したが前年88.3%を大きく下回った。</li> <li>・Active Learningを14展開も満足度を前年よりも向上とならず、カリキュラムを次年度改定。専門科目は試験的に導入開始、効果が見られ次年度全コース導入へ。</li> <li>・IBPクラス1期生が卒業、グローバルサロン就職も出たが、カリキュラムの見直しは必要。</li> </ul>

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は明記されているが、教職員には講師全体会などを利用し、説明と配布物等で知らせている。全員が理解し、定着するには時間がかかる。伝える手段や時期を検討し、理解をはかることが重要である。また、学生にも配布物で渡すだけでなく、入学式以降も普段から伝える機会を設け、教職員が強く意識し、リマインドしていくことが必要である。</p>	<p>育成人材像の内容やそれを実現していくためには提携企業の協力が必須となる。職業実践専門課程や教育課程編成委員会を大いに活用し、特別授業やセミナー、分科会を通じて理想とする人材育成を追求していく必要がある。</p> <p>サービスラーニングを全コースで実現していくために、本学園では社会貢献センターという部署があり、外部のボランティア団体と学校をつなぐための調整や手配を行っている。普段からセンターを利用する学生も徐々に増えてきている。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	中村 竜二
--------	-----------	-------	-------

## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	山口学園の理念、本校の教育目的を2019年HANDBOOKに明記、各コースの育成人材像は担当者ガイドに明記し、教職員に共有することを方針としている。	教職員には新年度の開講前に全講師MTGで方針を発表、学生には新入生、進級生オリエンテーションでHANDBOOKを配布し説明する。	理念や目的を教職員や学生に定着させられるか課題。育成人材像は必要に応じて内容を吟味し、教職員には担当者ガイドで告知しているが、学生にはHANDBOOKに明記し説明した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019HANDBOOK</li> <li>・2019担当者ガイド</li> </ul>
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	育成人材像はコースデザイン会議でコース主任、部署責任者で協議を重ね、決定したものを担当者ガイドに明記し、共有することを方針としている。	育成人材像を目指すためのカリキュラムを作成、提携企業に評価していただき、企業が求める人材像かを確認する。教育課程編成委員会にて	8コースのうち4コースの教育課程編成委員会を開催、次年度は全コース開催で企業ニーズと本校の教育目標を検証する機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019担当者ガイド</li> </ul>
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	インターンシップ等現場技術の習得をカリキュラムに導入し、また、サービスラーニングとして全コースで地域貢献などボランティア活動を行う等人間力向上を図ることを目指す。	各コースでインターンシップや実習授業をカリキュラムとして導入している。 各コースで目的とボランティアの内容を検討し、学生中心で実施する。	最新の専門力技術情報収集力が不足している。収集力向上のために教育課程編成委員会のさらなる活用が必要となる。 学生主体でのボランティアではあるが、運営するために担任もある程度は意見を述べることがあるが、入りすぎる。学生の主体性が薄れている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019HANDBOOK</li> <li>・地域貢献実施状況一覧表(2019)</li> <li>・ECC社会貢献・国際交流センター情報誌</li> </ul>

1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	育成人材像を作成するときには企業や社会のニーズを考えて協議して決定する。	コースデザイン会議にて育成人材像を協議しているが、教職員や専任講師で決めることが多い。教育課程編成委員会の分科会を一部活用して協議している。	提携企業との連携を密にし、作成した育成人材像の内容を確認いただくコースを増加させる。次年度は全コース開催で企業ニーズと本校の教育目標を検証する機会を増や	・2019担当者ガイド
-------------------------------	--------------------------------------	--	--	-------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は明記されているが、教職員には講師全体会などを利用し、説明と配布物等で知らせている。全員が理解し、定着するには時間がかかる。伝える手段や時期を検討し、理解をはかることが重要である。また、学生にも配布物で渡すだけでなく、入学式以降も普段から伝える機会を設け、教職員が強く意識し、リマインドしていくことが必要である。</p>	<p>育成人材像の内容やそれを実現していくためには提携企業の協力が必須となる。職業実践専門課程や教育課程編成委員会を大いに活用し、特別授業やセミナー、分科会を通じて理想とする人材育成を追求していく必要がある。</p> <p>サービスラーニングを全コースで実現していくために、本学園では社会貢献センターという部署があり、外部のボランティア団体と学校をつなぐための調整や手配を行っている。センターを利用する学生が一部に限定されているので広げる必要がある。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	中村 竜二
--------	-----------	-------	-------



## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>※3校共通の内容記載が必要</p> <p>（仮）新年度の開講前に山口学園事業計画が発表され、同時に本校の運営方針、事業計画書を教職員向けに発表する。それを、全コースの専任教員に全体会にて説明し、最後に非常勤講師には全講師会議で説明という流れである。また、前期終了時点では前期の振り返りをすると同時に後期に向けて、再度事業計画の確認を行うことにしている。</p> <p>寄付行為に基づき年間2回以上の理事会、評議員会を開催し、議事録を作成している。</p> <p>学園全体の組織図を作成し業務分担を明確化するとともに、これに基づき各校での業務分掌を作成している。</p> <p>人事、給与に関して規定が文書化されている。常勤講師や職員は年間2回の面談を必須化し業務やその評価に関して討議する機会を設定している。進捗管理を強化し、目標達成と評価のさらなる明確化を目指す。</p> <p>部署責任者会議、コースデザイン会議、教務会議、進路会議、教職員会議を定期的に行い、協議の上で決定している。日々の学校運営の中、会議を開催するために、全員揃わないこともあり、時間割作成前に予め定例会議の日程を定める等の対応により改善を図る。</p> <p>学生個人情報、クラス管理、時間割、講師管理、学費管理、教材費管理、行事費管理を学園システムで運用しているが、姉妹校3校の共通のシステムだけは不十分なところもあり、学校独自の管理システムも保有している。</p>	

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	中村 竜二
--------	-----------	-------	-------

## 2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	学園の理念の考え方を基に本校の運営方針を作成する。同時に各部署の目標を定めることを基本とする。	運営方針や目標数値は年度のはじめに教職員対象の全体会で説明している。講師向けには別途全講師会議で説明している。	各部署の目標は年2回の全体会等で説明するが、コースや講師によって浸透度合いが異なり、いかに理解してもらうか課題である。数値目標等定めてさらに明確な目標設定を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019山口学園事業経営計画</li> <li>・2019年度運営方針</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新年度の開講前に山口学園事業計画が発表され、同時に本校の運営方針を教職員向けに発表する。それを、全コースの専任教員に全体会にて説明し、最後に非常勤講師には全講師会議で説明という流れである。また、前期終了時点では前期の振り返りをすると同時に後期に向けて、再度運営方針の確認を行うことにしている。	運営方針は年に2回の全体会での発表や確認する機会があるが、普段から意識してもらうためにはPDCAのサイクルの機会を増やして運営方針の浸透をはかる必要がある。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	中村 竜二
--------	-----------	-------	-------

## 2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学園の理念の考え方を基に本校の事業計画を作成する。同時に各部署の役割を明記することを基本とする。	2019年度初めに教職員対象の全体会で説明している。 学園としての3カ年計画が作成されている。	学内の単年度事業計画はあるが、中期的なビジョンが見えにくい。学内での3ヶ年の事業計画を作成する必要がある。	・2019年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新年度の開講前に山口学園事業計画が発表され、同時に本校の運営方針、事業計画書を教職員向けに発表する。それを、全コースの専任教員に全体会にて説明し、最後に非常勤講師には全講師会議で説明という流れである。また、前期終了時点では前期の振り返りをすると同時に後期に向けて、再度事業計画の確認を行うことにしている。	事業計画の内容は毎週実施している部署責任者会議でも取り上げて協議することはあるが、見直しの時期を定めておらず、年間でスケジュールを組む必要がある。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	中村 竜二
--------	-----------	-------	-------

## 2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	学校法人山口学園は寄付行為に基づき組織運営を行うことが基本的な考え方である。	寄付行為に基づいて理事会、評議委員会適切に開催している。(3月・5月・10月)理事会、評議委員会においては必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。寄付行為を改正する場合は、適正な手続きをへて		<ul style="list-style-type: none"> <li>山口学園寄付行為</li> <li>理事会、評議委員会議事録</li> <li>理事、評議委員名簿</li> </ul>
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	学園全体の組織図を作成し業務分担を明確化する。	学園全体の組織図が作成され、各校でこれに基づく業務分掌が作成されている。	各校の部署の役割に多少の差異が見られる。各校の特色に合わせながらも学園全体の整合性を保つことを図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019組織図</li> <li>2019学内業務分掌</li> </ul>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>寄付行為に基づき年間2回以上の理事会、評議員会を開催し、議事録を作成している。</p> <p>学園全体の組織図を作成し業務分担を明確化するとともに、これに基づき各校での業務分掌を作成している。</p>	

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司

## 2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	教員の採用に関しては学生数の変化に対応し適切な基準を設け採用することを方針としている。給与に関しても評価基準を設定し適切に運用することになっている。	採用基準、条件については適切に提示している。給与支給等については就業規則に規定を明確化している。	目標管理シートや評価シートを使用して評価を実施しているが、業務の遂行状況に個人差が発生する場合がある。進捗管理の強化を図り、目標達成と評価のさらなる明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則</li> <li>・人事規定</li> <li>・給与規程</li> <li>・人事採用Webページ</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事、給与に関して規定が文書化されている。常勤講師や職員は年間2回の面談を必須化し業務やその評価に関して討議する機会を設定している。進捗管理を強化し、目標達成と評価のさらなる明確化を目指す。	

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	複数の機能別会議を定期的に行い、協議の上で決定することを基本とする。	部署責任者会議、コースデザイン会議、教務会議、進路会議、教職員会議を定期的に行い、協議の上で決定している。 教職員会議は時間割作成時に日時を固定することができた。	教職員会議の出席率が悪いときもあり、情報共有が遅れることもある。議事録では確認が取れる便利さはある半面、揃わず協議できないことも課題。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署責任者会議議事録</li> <li>・コースデザイン会議議事録</li> <li>・教務会議議事録</li> <li>・進路会議議事録</li> <li>・教職員会議AGENDA</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>部署責任者会議、コースデザイン会議、教務会議、進路会議、教職員会議を定期的に行い、協議の上で決定している。</p> <p>日々の学校運営の中、会議を開催するために、全員揃わないこともあったが、時間割作成前に予め定例会議の日程を定める等の対応により教職員会議で全員揃わない課題は概ね改善が図られた。一方、会議の頻度が原則2週間に1回でタイムラグが生じているため、学内情報伝達方法の構築が必要である。</p>	

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司

## 2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	学園システム（独自のシステム）を構築し、運用することを目指す。	定期的に現状のシステムの問題点などを学園本部や姉妹校と協議し、必要に応じて変更している。	姉妹校3校のニーズが多少違うが効率的に運用するために共通のシステムとなっている。学校単位では使いにくい面が出てきており、学校単独のシステムを保有し、改善しながら補完しての運用を図る。 学校アプリを導入すること	・システム構成図

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生個人情報、クラス管理、時間割、講師管理、学費管理、教材費管理、行事費管理を学園システムで運用しているが、姉妹校3校の共通のシステムだけは不十分なところもあり、学校独自の管理システムも保有している。学校アプリを導入することによりこれを補足する。	二つのシステムで効率よく運営できていない部分もあり、改良を続けている。

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司

## 基準3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>職業実践専門課程の規定に基づき教育課程を編成している。コースごとに企業と提携する授業を設定し、実践的な授業展開を目指している。</p> <p>コースごとに会議（コースデザイン会議）を繰り返し、コース別に人材目標、DP、目指す職種、年度数値目標を設定しており、冊子にして非常勤講師を含めた全スタッフに配布し、年度初めの講師会にて共有している。</p> <p>教育課程編成委員会は年間2回開催し、外部の意見を取り入れる仕組みを構築している。コースが8コースあり、多分野にまたがるため、学科ごとの分科会を正式な委員会へと移行したが、さらに踏み込んでコースごとの教育課程編成委員会構成を目指す。</p> <p>学生アンケート・授業オブザーブは年間2回実施し、その結果を授業改善に活用しているが、アンケート結果の学生へのフィードバックが十分できていないことが課題の1つとなっている。</p> <p>目標とする資格はコース別に明確に設定している。正規授業としてその指導内容は組み込まれており、状況に応じて特別対策授業を追加している。</p> <p>コンテスト結果を直接成績に反映させることは実施していないが、授業内での作品製作評価で公平に評価されており、結果的にコンテスト実績に繋がるケースが多い。</p> <p>教員採用は必要資格・専門技術・教授力等評価する制度は整備しているが、人材確保が困難な状況となっている。教員の資質向上に当たっては、さらに高い水準を目指して外部研修等を積極的に案内、参加させる仕組みが必要となる。</p>	<p>2019年度コンテスト実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジアネイルフェスティバル」 全日本理美容学校対抗ネイル選手権 1位、 ネイティフル部門 1位/2位</li> <li>・「第14回IBF主催 フォトコンテスト」 1位</li> <li>・「全日本美容専門学生選抜 ヘアメイク選手権大会」1位</li> <li>・「ICAMフォトコンペティション ビューティ部門」1位</li> </ul> <p>2019年度検定実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「JNECネイリスト技能検定2級」 100%</li> <li>・「JNECネイリスト技能検定1級」 68.4%</li> <li>・「国際アイラッシュ検定1級」 95.5%</li> <li>・「JBMAメイクアップ技術検定Basicコース」 100%</li> <li>・「JBMAメイクアップ技術検定プロフェッショナルコース」 80.1%</li> <li>・「エステティシャンセンター試験資格」 100%</li> </ul>

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	職業実践専門課程の規定に基づきカリキュラムを作成し、教育課程編成委員会での意見・情報集によりその強化を図ることを目指す。	コースごとの会議（コースデザイン会議）を定例化し、カリキュラムの妥当性を協議している。教育課程編成委員会を年間2回開催し、外部機関の意見収集を実施している。2019年度より学科ごとの分科会を正式な委員会に移行し	コースが8コースあり、多分野にまたがるため教育課程編成委員会で踏み込んだ内容を討議するのが困難な状況ある。2019年度より学科ごとの分科会を正式な委員会に移行したが、さらに踏み込んでコースごとの教育課程編成委員会構成を目指す。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	コースごとにDP・CPを設定し、これに基づきカリキュラムを編成することを基本とする。	コースごとに会議（コースデザイン会議）を繰り返し、コース別に人材目標、DP、目指す職種、年度数値目標を設定している。	コースごとにDP・CPを設定し、これに基づきカリキュラムを編成しているが、これを学生に徹底する機会が少なく、動画作成等により統一された形式で配信、閲覧、確認課題提出等、仕掛けを検討	・2019担当者ガイド

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の規定に基づきカリキュラム編成を実施している。コース別で人材目標、DP、CP、目指す職種、年度数値目標を設定しており、カリキュラム上課題がある場合は、コース別の定例会議にて確認、変更をかけるようにしている。教育課程編成委員会は学科ごとの分科会を正式な委員会へと移行したが、さらに踏み込んでコースごとの教育課程編成委員会構成を目指す。	コース別設定している人材目標、DP、CP、目指す職種、年度数値目標は冊子にして非常勤講師を含めた全スタッフに配布し、年度初めの講師会にて共有している。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	外部の情報、意見を取り入れながら、定例の学内会議に基づき設定している。	コースごとのカリキュラム検討会議を1ヶ月に1回程度開催し、カリキュラムの妥当性を協議している。	最新情報、最新技術や外部機関の情報収集力がまだ不足しており、教育課程編成委員会は2019年度より学科ごとの分科会を正式な委員会に移行したが、さらに踏み込んでコースごとの教育課程編成委員会構成を目指す。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	教育課程編成委員会、分科会や外部講師を交えた会議を実施し意見を反映することを指針とする。	教育課程編成委員会は年間2回実施、分科会も不定期で開催を実施している。外部講師を交えた会議をコースごとに年間2回実施している。	教育課程編成委員会が8コースにまたがる内容を網羅する必要があり、コースごとの教育課程編成委員会を実施することにより具体的なカリキュラムに反映する必要性がある。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」 ・全体講師会/講師会の分科会会議資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	職業実践専門課程に準拠したカリキュラム、企業提携の科目設定に加えてインターンシップを積極的に導入することを目指す。	コース別に企業提携科目を設定している。また、大半のコースでインターンシップを必須化しており、実践的なカリキュラムを導入している。	コース間でその充実度合いにばらつきがあり、再度、コース別での協議、検討が必要である。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」 ・インターンシップ報告書
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生アンケートおよび授業オブザーブを実施し、授業改善につなげることを基本とする。	授業評価として年間2回の学生アンケートおよび授業オブザーブを実施している。	学生アンケート結果の学生へのフィードバックが不十分。まずは主要項目の回答を設定したい。	・2019学生アンケート結果 ・授業オブザーブ記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>外部の情報、意見を取り入れながら職業実践専門課程に基づきカリキュラム・教育課程編成を実施している。教育課程編成委員会が8コースにまたがる内容を網羅する必要がある、2019年度より学科ごとの分科会を正式な委員会に移行したが、さらに踏み込んでコースごとの教育課程編成委員会を開催することにより具体的なカリキュラムに反映する必要がある。年間2回の学生アンケート、授業オブザーブを実施し、授業改善につなげている。</p>	<p>職業実践専門課程に基づく企業提携授業を設定。また、大半のコースでインターンシップを必須化している。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績の評価法および修了認定基準は、DPに基づき各コース、各教科の教員が作成し教務スタッフで情報共有することを基本と考えている。	成績の評価法は授業開始前に作成するコマシラバス作成時に設定し、初回授業にて学生に伝達、説明している。	評価法、認定基準はコースや教科に委ねられており、それが適正であるかの吟味は教務内での討議が求められる。試験点/平常点/課題点のバランス、コマシラバス設定等に関しては教務課が確認等実施し適正な管理の改善を実施中、これを今後強化の予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019学則</li> <li>・2019担当者ガイド</li> </ul>
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	コンテスト等を調査し、参加必須コンテストや推奨コンテストを設定する。また、コンテスト結果は記録を残し学内で共有する。さらに全コース参加の技術発表会を設定して技術習得に繋げることを目指している。	各コースで目標コンテストを設定し、対策授業、課外レッスン等で実績に繋げている。結果をコース別で入力して情報共有している。	コースによって受賞実績等にばらつきがあり、弱いコースはカリキュラムの見直し、対策案が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019コンテスト結果一覧</li> <li>・Eコレ2019パンフレット (開催時にアンケート実施)</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価に関しては、原則コマシラバス作成時に成績点・平常点・課題点の配分を決定し評価法を設定する状況となっているが、このバランス、コマシラバス設定等の適正な管理の改善を実施中、これを今後強化の予定。コンテスト結果を直接成績に反映させることは実施していないが、授業内での作品製作評価で公平に評価されており、結果的にコンテスト実績に繋がるケースが多い。	コンテストでは、「アジアネイルフェスティバル」全日本理美容学校対抗ネイル選手権1位、「全日本美容専門学生選抜 ヘアメイク選手権大会」1位等多数のコンテストで優勝および上位入賞を果たしている。技術発表会に関しては1000人規模の会場である堂島リバーフォーラムを毎年1日間借り切って、各コースから作品製作発表を実施しており、保護者や業界関連企業を招待している。

**3-11 資格・免許の取得の指導体制**

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	コース別で取得資格目標を提案し、学内の会議にて討議の上、正式設定している。	コース別にDPを設定すると共に「数値目標」の項目で具体的な資格/検定名とその目標合格率を設定している。	検定結果は大半が高い水準を維持しているが、最重要検定を絞り込み、徹底した指導と対策を講じることによりレベルアップを図ることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019担当者ガイド「学科・コース一覧」(p32～p40)</li> <li>・2019検定実績一覧</li> </ul>
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	目標資格取得に当たっての指導はカリキュラムとして、あるいは特別対策授業等の体制をとって対応することを目指す。	目標資格は正規科目の授業として設定し、理解が不足している学生には追加授業に参加させて水準を確保している。	追加授業に参加しない学生も一部見られ、該当資格の重要性伝達の徹底が必要である。1年生には全員iPadを貸与する制度を導入し、資格試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019HANDBOOK</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
目標とする資格はコース別に明確に設定している。正規授業としてその指導内容は組み込まれており、状況に応じて特別対策授業を追加している。理解不足者へのフォロー授業も準備しているが、それを欠席する学生も存在しており、その対策が課題となっている。1年生には全員iPadを貸与する制度を導入し、資格試験対策にも活用予定。	2019年度：「JNECネイリスト技能検定2級」 100%、「JNECネイリスト技能検定1級」 68.4%、「国際アイラッシュ検定1級」 95.5%、「JBMAメイクアップ技術検定Basicコース」 100%、「JBMAメイクアップ技術検定プロフェッショナルコース」 80.1%、「エステティシャンセンター試験資格」 100% 等、各コースで高い資格取得率となっている。



## 3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	必要資格に関しては必須とし、技術面・教授面に関しても基準を満たす人材確保を行うことが重要だと考えている。	資格に関しては面接までに証明書を入手した上で、面接では人物評価に加えて技術チェック・模擬授業を実施する。	求める人材を確保することが困難で、欠員が発生した場合だけでなく年中面接を実施し、人材をプールする制度を目指す。	・面接シート
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	指導力向上のための研修ならびにコース別に専攻分野における実務に関する研修を実施することを方針とする。	指導力向上のための研修は必須である外部講師による研修に加えて、内部研修も適時実施している。専攻分野における実務に関する研修は、外部研修への参加もしくは外部講師による研修をコース別で実施している。	指導力向上をさらに強化する必要性があり、外部研修参加を促進する。協会の定例研修だけでなく、教員にとって本当に必要となる専門分野の研修を調査し受講できる仕組みを構築したい。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	コース別に組織を編成し、教務・進路・事務局等の部署がこれをサポートすることを基本とする。	コース別で組織を編成しており、コース別の目標、各部署の目標も文書化されている。これに基づき年に2回の全体会議を開催し、情報共有と	行き詰った場合のサポート体制がさらに必要となり、プロジェクト形式での支援等が有効であると思われる。	・2019担当者ガイド ・2019組織図

中項目総括

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）



<p>教員採用は必要資格・専門技術・教授力等評価する制度は整備しているが、人材確保が困難な状況となっている。教員の資質向上に当たっては、さらに高い水準を目指して外部研修等を積極的に案内、参加させる仕組みが必要となる。協会の定例研修だけでなく、教員にとって本当に必要となる専門分野の研修を調査し受講できる仕組みを構築したい。組織的には現状の体制に加えてプロジェクト形式による支援が有効と考える。</p>	<p>コースが多彩であり、専門分野が複数にまたがるため、コースごとの計画が必要であり、年度当初にしっかりと確認する制度が必要である。</p>
--	--

最終更新日付	2019年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
-------	--------------------

就職内定率については、卒業迄に100%達成を目標としている。

学生本人の志望就職先への支援を原則とし、就職対策授業内で全学生の活動状況の把握を行う一方、担任にも毎週「コミュニケーション授業」内で学生本人に活動状況を書かせて提出してもらい、進路指導課と担任の双方が常に情報共有を行い、連携を図りながら学生本人の希望を優先しつつ、個人の能力と適性を考慮した指導を協力して行っている。またその際には、専門技術／専門知識を活かせる関連業界への就職を意識しながら指導を行っている。

資格・免許の取得については、各科・コース毎に取得目標となる資格を設定し、同時に取得目標率を掲げカリキュラムや補講・直前対策等の指導体制を整えている。課題としては、同クラス内でのレベル差が大きい場合や学生自身の資格取得への意欲低下等がある。特に人数が多い場合はレベル別クラス編成を行い、意欲低下者を出さないように資格取得の重要性を徹底する必要がある。

卒業生の業界での活躍・評価は教育成果の証明や在校生のモチベーションに繋がるだけでなく、採用や求人募集にも直結する場合が多い。就職先企業から、キャリアアップのみならず、卒業生の報告を受けることができるシステマティックな体制作りは重要と考える。

<2019年度就職内定結果 2020年3月末付>

※コース別 内定者数／求職者数＝就職内定率(%)

- ・ビューティアドバイザーコース：87／87＝100
- ・ヘアメイクコース：40／41＝97.6
- ・エステティシャンコース：13／13＝100
- ・ネイリストコース：19／19＝100
- ・ブライダル・ウェディングコース：11／11＝100
- ・トータルビューティストコース：30／30＝100
- ・特殊メイクアーティストコース：10／14＝71.4
- ・美容科：51／51＝100

※内定先は2名が業界以外の就職。

※留学・進学：28名（内、美容科13名、特殊メイク12名は3年制への進学）

※就職以外の進路を希望：9名

※4月に100%を達成

コースによる数的差はあるが、春期に学内企業説明会を実施し、その説明会を契機に、学校推薦／学校経由受験を積極的に進めている。コースが多彩にあるので、目指すべき資格が学校の中で多岐にわたっている。コースが違うが目指す資格が同じものもあるので、合同クラスなどにより実施している。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	兼田 寛子
--------	-----------	-------	-------

**4-13 就職率**

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が 図られているか	卒業迄に就職内定率100%達成を目標とする。 学生本人の志望就職先への支援が原則であるが、習得した専門技術／専門知識を活かせる関連業界への就職指導、また、個人の能力と適性を考慮した指導も行う。	進路指導課が年間指導計画を立案。就職対策授業、業界研究授業、企業対応業務を主導。就職対策授業内で学生全員の活動状況を把握、内定率も管理している。また、毎年企業と連携し学内企業セミナーを行い、それを契機に学校推薦／学校経由受験を積極的	部署間の方向性・目標の相違が学生指導に影響を及ぼす為、教務課・専任と進路指導課がコースデザイン会議を持ち、就職指導に対する目標・方針・見解の統一を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年就職活動状況個人別記録データ</li> <li>・内定率データ</li> <li>・学内企業説明会日程一覧</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業迄に就職内定率100%達成を目標としている。学生本人の志望就職先への支援を原則とし、就職対策授業内で全学生の活動状況の把握を行う一方、担任にも毎週「コミュニケーション授業」内で学生本人に活動状況を書かせて提出してもらい、進路指導課と担任の双方が常に情報共有を行い連携を図りながら、学生本人の希望を優先しつつ、個人の能力と適性を考慮した指導を協力して行っている。またその際には、専門技術／専門知識を活かせる関連業界への就職を意識しながら指導を行っている。	コースによる数的差はあるが、春期に学内企業説明会を実施し、その説明会を契機に、学校推薦／学校経由受験を積極的に進めている。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	兼田 寛子
--------	-----------	-------	-------

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	各科・コース毎に取得目標となる資格および合格率を設定することを指針とする。	資格取得対策授業をカリキュラムに組み込み、直前対策および補講などを実施している。	同クラス内でのレベル差および資格取得への意欲低下者への対応が課題である。習熟度が低い学生への特別授業の体制構築すると共に1年生には全員iPadを貸与する制度を導入し、資格試験対策にも活用予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内</li> <li>・2019生HANDBOOK</li> <li>・2019担当者ガイド</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各科・コース毎に取得目標となる資格を設定し、同時に取得目標率を掲げカリキュラムや補講・直前対策等の指導體制を整えている。課題としては、同クラス内でのレベル差が大きい場合や学生自身の資格取得への意欲低下等がある。特に人数が多い場合はレベル別クラス編成を行い、意欲低下者を出さないように資格取得の重要性を徹底する必要がある。習熟度が低い学生への特別授業の体制構築すると共に1年生には全員iPadを貸与する制度を導入し、資格試験対策にも活用予定。	コースが多彩にあるので、目指すべき資格が学校の中で多岐にわたっている。コースが違うが目指す資格が同じものもあるので、合同クラスなどにより実施している。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の業界での高評価は教育成果の証明や在校生のモチベーションに繋がる為、就職先企業から、キャリアアップの報告を受けることができる体制作りは重要と考える。	就職先企業の人事担当者とは意識的にコンスタントに連絡をとるようにしている。卒業生のキャリアアップについては、求人／OGセミナー／企業セミナー依頼の際、また訪問・来校の都度実態把握を行うようにしている。	就職先企業の訪問等による現状把握と並行して、学校全体で、これまでの卒業生全員を追跡する為の、システムティックな体制作りへの取り組みが必要。学校アプリを導入することによりこれを補足する。	・卒業生情報データ (データ入力開始後数年分のみ)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の業界での活躍は教育成果の証明や在校生のモチベーションに繋がるだけでなく、採用や求人募集にも直結する場合が多い。就職先企業から、キャリアアップのみならず、卒業生の報告を受けることができるシステムティックな体制作りは重要と考える。	交流会は現状参加者が少ない状況。参加者を増加させる仕組みが必要と考えている。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	兼田 寛子
--------	-----------	-------	-------

## 基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>進路支援において、全体指導としては、進路指導課・就職授業担当講師・担任が様々なツールで学生の情報を共有・連携して指導に臨み、即座に問題に対応する体制を整えている。同時に個別指導の為に「キャリアサポートルーム」を設置し個人の希望やレベルに合わせた相談や指導を実施。また、進路指導課が主導し、卒業次年度生に向けて業界セミナー、モチベーションアップセミナー、学内企業説明会を開催、就職活動をバックアップしている。</p> <p>中途退学への対応として、受け入れた学生全員を責任もって卒業および進路達成へ導くという方向性は全体で共有、教職員の意識の向上を図っている。またクラス担任だけでなく複数の相談窓口とサポート体制をつくり特に精神的な側面においては学生相談室（スクールカウンセラー）へと繋げている。長欠生がクラスに戻った際のクラスマネジメントが課題であり、補講体制だけでなく、レベル別もしくは特別クラスの設置などが求められている。担任、教務課スタッフによるコース担当、教職協同によるリテンションチーム、学生相談室など複数が手をつなぎ学生一人ひとりをサポートしていく体制を取りながら、ケースによっては本校スクールカウンセラーや保健室など専門家と繋げている。また留学生も同様のアプローチを行い、特に在籍管理は留学生担当者を設置し行っている。課題として担任それぞれの力量に頼るところが大きく、担任力向上のための取り組みを図っていく。</p> <p>経済支援の面では、学習意欲の高い入学者に対する学費減免優遇制度や学費納入方法を経済的事情に合わせた体制を設置し、経済的な事情で進学が難しい学生を支援している。</p> <p>学生の健康管理面では、保健室を設置し専門教員を配置。健康診断や健康調査アンケートの実施などにより学生たちの健康面での管理を行っている。</p> <p>一人暮らし希望学生に対して提携の不動産会社と連携し学生寮、マンション（寮中）... 特別遠征地... の就学生... として... 学時は経済的支援...</p>	<p>進路支援では、個人の希望やレベルに合わせた相談や指導のために、事前予約制の「キャリアサポートルーム」を常設し、個別指導に当たっている。</p> <p>留学生は就職先が難しいことから2019年度在籍は1名である。</p> <p>社会人経験者の受け入れについては、本校就職先の多くは年齢が高くなるほど採用が難しく、学校の責任として、そのことをきっちりと伝え、理解いただいた上で受験いただいている。</p>

保護者との連携は学校として必要不可欠なものと考え、必要に応じ随時連絡を取っている。また年2回保護者会を開催し、学生生活状況や就職活動についてなどを共有。課題として連絡がつきにくい保護者や学校に無関心の保護者との連携がある。入学式や保護者への案内物発送時に連携への呼びかけを強めていく必要がある。

卒業生の活動状況把握や交流の場として校友会（同窓会）を組織し、年1度同窓会を開催している。ただ、まだ認知が低いのと開催日が土日となっているため、仕事日にあたる卒業生が多く開催日程も大きな課題となっている。卒業生が再就職などの相談で来校の際は可能な限り対応を行っている。

社会人経験者の入学については本校の学習環境・進路体制を明確に伝え、理解の上で入学を認めている。また短大・大学・専門学校卒業生については経済的支援として学費減免制度を設けている。

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

兼田 寛子

## 5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	学生の進路支援について全体指導の為に連携体制を整備する。また同時に個別指導の為に環境を整えることを目指す。	進路指導課・就職授業担当講師・担任は活動報告書、カルテ、学内メールで学生の情報・活動状況を共有し連携して指導に臨み、即座に問題に対応する体制を整えている。同時に予約制の「キャリアサポートルーム」を常設し個人の希望やレベルに合わせた相談・指導を実施。 また進路指導課が関連業界の就職に関するセミナーや学内企業説明会を開催し、受験者	筆記対策授業において、クラス内で理解力のレベル差が大きく、授業の進行が難しいという状況が起きている。全学生をフォローアップできる内容とテキストに改善する方法、あるいは同一授業内でレベル別授業を実施する方法など、現在対策を模索中。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動報告書</li> <li>・学生別就職活動状況記録データ</li> <li>・学内メール送信記録</li> <li>・キャリアサポートルーム予約表</li> <li>・就職対策授業シラバス</li> <li>・就職対策授業オリジナルテキスト</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の進路支援について、全体指導としては、進路指導課・就職授業担当講師・担任が様々なツールで学生の情報を共有し、連携して指導に臨み、即座に問題に対応する体制を整えている。同時に個別指導の為に「キャリアサポートルーム」を設置し個人の希望やレベルに合わせた相談や指導を行っている。</p> <p>また、進路指導課が主導して、卒業次年度生に向けて業界セミナー、モチベーションアップセミナー、学内企業説明会を開催し、就職活動をバックアップしている。</p>	<p>個人の希望やレベルに合わせた相談や指導のために、事前予約制の「キャリアサポートルーム」を常設し、個別指導に当たっている。</p>



## 5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が 図られているか	受け入れた学生全員の成長と誰一人おいておくことなく卒業および進路達成へ導くことが重要だと考えている。	クラス担任、クラス担任をサポートする教務課コース担当、教職員の学生対応力向上を目的とした教職協働によるリテンションチームの設置。非常勤講師との相互連絡手段として各コース毎の学内ショートメールを使用。日々出席状況チェックおよび学生面談ならびに必要な学生には保護者との連携を図っている。	退学抑制の解決法の一つとして、学生の意識向上の取組みに自己啓発およびグループワーク形式のセミナー「実践行動学」を学期の節目（入学直前のオリエンテーション、9月、3月）に導入したが改善することができなかった。魅力ある授業を提供することにより欠席の抑制、退学の抑制を図る方針へ転換。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校方針、教務課方針</li> <li>・学生サポート体制図</li> <li>・学生カルテへの記録</li> <li>・保護者説明会資料</li> </ul>

中項目総括

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

受け入れた学生全員を責任もって卒業および進路達成へ導くという方向性は全体で共有、教職員の意識の向上を図っている。またクラス担任だけでなく複数の相談窓口とサポート体制をつくり特に精神的な側面においては学生相談室（スクールカウンセラー）へと繋げている。退学抑制の解決法の一つとして、学生の意識向上の取組みに自己啓発およびグループワーク形式のセミナー「実践行動学」を学期の節目（入学直前のオリエンテーション、9月、3月）に導入したが改善することができなかった。魅力ある授業を提供することにより欠席の抑制、退学の抑制を図る方針へ転換。

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司

## 5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	担任、教務課スタッフによるコース担当、教職協同によるリテンションチーム、学生相談室など複数が手をつなぎ学生一人ひとりをサポートすることを目指す。	担任が主たる学生相談窓口となり必要に応じて面談などを実施。また状況に合わせて教務課スタッフ、リテンションチームも加わり学生や保護者へのアプローチを実施。学生カルテへの記述や定例MTG等にて共有も図っている。特に精神面などでは学生相談室（スクールカウンセラー）にも繋げている。	担任毎で学生対応における考え方や力の差がある。担任力向上を目的とした定期的な研修会・事例研究などを実施していく。担任力向上の取組みとして専門家による外部研修を取り入れ、担任自身の学生や保護者への対応や指導力アップを図ったが課題は残った状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019学生HANDBOOK</li> <li>・組織図</li> <li>・2019担当者ガイド</li> <li>・学生相談室案内</li> </ul>
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	担任および留学生担当者を設置し留学生をサポートすることを基本とする。	担任が主たる学生相談窓口となり必要に応じて面談などを実施。また状況に合わせて教務課スタッフ、リテンションチームも加わり学生や保護者へのアプローチを実施。学生カルテへの記述や定例MTG等にて共有も図っている。特に精神面などでは学生相談室（スクールカウンセラー）にも繋げている。在籍管理に関しては留学生担当者が行って	日本語力の面で専門授業についていけない留学生への対応が課題としてある。日本語授業を設置し対応を図っている。学内での留学生数は大きく減少しているため（2名）、現状は大きな課題とはなっていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019学生HANDBOOK</li> <li>・2019留学生HANDBOOK</li> <li>・組織図</li> <li>・2019担当者ガイド</li> <li>・学生相談室案内</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>担任、教務課スタッフによるコース担当、教職協同によるリテンションチーム、学生相談室など複数が手をつなぎ学生一人ひとりをサポートしていく体制を取りながら、ケースによっては本校スクールカウンセラーや保健室など専門家と繋げている。担任力向上の取組みとして専門家による外部研修を取り入れ、担任自身の学生や保護者への対応や指導力アップを図ったが課題は残った状況。ま学内での留学生数は大きく減少しているため（2名）、現状は大きな課題とはなっていない。</p>	<p>留学生は就職先が難しいことから2019年度在籍は2名である。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学習意欲の高い入学者に対する学費減免優遇制度や学費納入方法を経済的事情に合わせた体制を設置し、経済的な事情で進学が難しい学生を支援することを目指す。	AO入学奨学金（給付型奨学金）、特待制度による学費免除、ひとり暮らし支援制度、入学前の検定取得によるライセンス特別優遇、大学・短大・専門学校卒業者特別優遇、高校時の学生生活状況で評価するリーダーシップ優遇がある。また納入方法については一括だけでなく分割払い（1年次は3回払い、以降2回払い）、教育ローンが適用されない家庭をサポートする山口学園学費分納制度（学費を月々分割で支払う）を設けている。	学費分割者が退学をした際に本来取めるべき必要な学費を入金頂けないケースや卒業単位は取得できているが経済的事情により卒業までに学費全納ができないケースが発生している。2019年度、教育の無償化を申請、承認を得たので2020年度より運用予定。	・2021年度学生募集要項（各種減免制度、分割制度の案内を掲載）

<p>5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p>	<p>保健室を設置し専門教員を配置する。健康診断や健康調査アンケートの実施などにより学生たちの健康面での管理を行うことを基本とする。</p>	<p>学園の保健室を設置し、専門教員を配置、本校学生だけでなく教職員も利用できる形をとっている。定期健康診断や健康アンケート調査を実施、気になる学生は学校医に繋い</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園組織図</li> <li>・保健室からの案内</li> <li>・定期健康診断案内</li> </ul>
<p>5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか</p>	<p>一人暮らし希望学生に対して提携の不動産会社と連携し学生寮、マンションの案内をする。特に遠隔地からの就学生に対しては経済的支援も行うことを基本とする。</p>	<p>提携の不動産会社と連携し、希望者には案内を行っている。特に入学前には本校オープンキャンパス参加時に無料で宿泊体験もできる形をとっている。利用者や人数については提携会社より年度初めに報告を受けている。また遠隔地からの一人暮らし生には初年度申請書の提出・学校の承認により10万円の支援金を支給している。入学直後（4月、5月）にはセミナーを実施し、上級生も同席のもと、一人暮らしに関する注意点の確認や親睦交流を行っている。</p>	<p>料理、掃除、洗濯など日常に直結する生活指導面が不十分である。希望学生が学内で関連した指導が受けられる機会を設けることを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度学生募集要項</li> <li>・提携不動産会社案内紙</li> <li>・提携不動産会社からの入居者報告書</li> <li>・一人暮らしセミナー実施の案内</li> </ul>

<p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p>	<p>学生からの申請により学校が妥当と判断した場合、校内でのクラブ・サークル活動を認める。また大手スポーツジムと提携し課題で学生が体力作りを推奨することを方針としている。</p>	<p>山口学園3校（ECCアーティスト美容、ECC国際外語、ECCコンピュータ）で行われているクラブ・サークル活動を4月のオリエンテーション期間や掲示等にて案内し、希望する学生は自らで所属希望を各活動に申し出る。コースによっては放課後の自主練習としてクラブ活動を実施し、先輩が後輩を教えるという形を行っている。</p> <p>またECC社会貢献センター・国際交流センターを窓口とし、学生は希望すれば様々なボランティア活動に参加できる。</p>	<p>放課後の自主練習の一環としてクラブ活動を実施することを推奨し、知識・技術向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ／サークル案内掲示物</li> <li>・ECC社会貢献センター・国際交流センター情報誌</li> <li>・2019学生HANDBOOK</li> </ul>
------------------------------------	---	---	---	---

<p>中項目総括</p>	<p>特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）</p>
--------------	---------------------------

経済支援としては学習意欲の高い入学者に対する学費減免優遇制度や学費納入方法を経済的事情に合わせた体制を設置し、経済的な事情で進学が難しい学生を支援している。2019年度、教育の無償化を申請、承認を得たので2020年度より運用予定。健康管理については、保健室を設置し専門教員を配置し、健康診断や健康調査アンケートの実施などにより学生たちの健康面での管理を行っている。一人暮らし希望学生に対して提携の不動産会社と連携し学生寮、マンションの案内し、特に遠隔地からの就学生に対しては入学時に経済的支援を実施。課外活動面では学生からの申請により学校が妥当と判断した場合、学内でのクラブ・サークル活動を認め、特に体力作りの面で大手スポーツジムTipnessと提携し、課題で学生が体力作りすることを推奨している。

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	保護者との連携は必要不可欠なものとし、必要に応じて保護者と連絡を取り、学校と保護者が連携しながら学生を卒業・目標達成に向けてサポートすることを方針としている。	出席状況や学生生活において必要と判断した際に保護者に連絡を取り、状況の共有と改善への協力を求めている。特に難しいケースには来校いただき担任や教務スタッフ等と面談を実施している。また、年2回保護者会を開催し、個別面談や就職活動のことなどの情報伝達を行っている。緊急時の連絡先については入学時の書類に記載いただいている。	なかなか連絡がつかない保護者や本人任せで学校に関心がない保護者との連携が難しい。オープンキャンパスや入学式など保護者が参加する行事にて保護者との連携の必要性を更に呼びかけていく。入学式のプログラムの中に保護者向けの時間をとり、そこで学校と保護者が繋がる必要性やともに学生をサポートしていくことを呼びかけ、保護者の意識も高めていく。また、保護者会への参加者数増加の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生カルテ記録</li> <li>・保護者会の案内</li> <li>・保護者会参加者アンケート</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者との連携は学校として必要不可欠なものと考え、必要に応じて連絡を取っている。また年2回保護者会を開催し、学生生活状況や就職活動についてなどを共有。課題として連絡がつきにくい保護者や学校に無関心の保護者との連携がある。入学式や保護者への案内物発送時に連携への呼びかけを強めていく必要がある。また、保護者会への参加者数増加の手法を構築する。	

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	同窓会を組織し、卒業生の活動状況の把握および交流を行う。卒業後の再就職支援も可能な限り行うことを目指す。	「校友会」という同窓会組織を設置。現状では過去5年に遡り同窓会の案内を送り、年1度同窓会を開催。活動状況の把握と卒業生同士の交流や情報交換の場作りをしている。また、卒業生が相談に来校すれば対応できる範囲での支援を行っている。	同窓会（校友会）を実施しているが、まだまだ認知が低いため、参加者が少ない。卒業生の職場は土日勤務が多いため曜日の設定を含めて多々改善が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校友会規定</li> <li>・校友会開催の案内</li> </ul>
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発は要望があれば検討する。	美容師国家試験対策等を実施しているが企業からの要請や提携に寄るものではなく、対個人との取り決めの中で対応している。	卒業生の技術向上に対して企業側からの要請は殆どない状況。要望を十分に確認できていない可能性もあり、まずは情報収集が必要。特に英語教育は需要の可能性あり。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の美容師国家試験対策予定</li> </ul>

5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	本校の学習環境・進路体制を明確に伝え、理解の上で入学を認める。また短大・大学・専門学校卒業者については経済的支援として学費減免を実施することを方針とする。	特に20代後半以上の社会人経験者については、入学問い合わせ時やオープンキャンパス参加時に約90%が高校卒業後に入学する学生であること、就職が現実問題として難しくなることなど本校の教育環境をしっかりと理解いただき受験いただいている。短大・大学・専門学校卒業者については10万円以内の学費減免を適用し		・2020年度学生募集要項
---------------------------------	---	--	--	---------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の活動状況把握や交流の場として校友会（同窓会）を組織し、年1度同窓会を開催している。まだ認知が低く、卒業生の職場は土日勤務が多いため曜日の設定を含めて多々改善が必要。卒業生が再就職などの相談で来校の際は可能な限り対応を行っている。社会人経験者の入学については本校の学習環境・進路体制を明確に伝え、理解の上で入学を認めている。また短大・大学・専門学校卒業者については経済的支援として学費減免制度を設けている。</p>	<p>本校就職先の多くが年齢が高くなるほど採用が難しく、学校の責任として、そのことをきっちりと伝え、理解いただいた上で受験いただいている。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実践に即した実習室、設備を配置することを目指し、各種サロン実習室等を保有している。校舎が手狭になってきていたが、新校舎確保できたためこの施設をフルに活用して対応中。ネイルサロンは施術ブースの台数増と全面改装工事を実施、教育環境の改善を実施中。</p> <p>各コースで学外学習・インターンシップをカリキュラムに導入しているが、その提携先の確保が課題となっている。</p> <p>また、英会話授業は、興味を持たない学生もいるため、iPadを活用したアクティブラーニング授業展開でネットワーク環境の増強が求められる。今年度は2号館、2021年までに全館のネットワークを増強する。TV設置の教室を増やし、学習手法の構築により教育効果向上を図る。</p>	<p>ネイルサロン、エステサロン、メイクサロン、美容サロン、BA実習室、特殊メイク工房等の実習室を保有している。</p> <p>英会話授業は全クラスに導入している。</p> <p>また、昼休み、放課後にネイティブ講師によるレッスン（自由参加型）等も展開している。</p>

最終更新日付

2018年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	実践に即した実習室、設備を配置することを目指している。	ネイルサロン、エステサロン、メイクサロン、美容サロン、BA実習室、特殊メイク工房等の実習室を整備している。	校舎設備が手狭となってきたが、新校舎確保できたためこの施設をフルに活用して対応中。ネイルサロンは設備を増強済み、教育環境の改善を実施中。	・2020年度学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実践に即した実習室、設備を配置することを目指し、各種サロン実習室等を保有している。校舎が手狭になってきていたが、新校舎確保できたためこの施設をフルに活用して対応中。ネイルサロンは設備を増強済み、教育環境の改善を実施中。	ネイルサロン、エステサロン、メイクサロン、美容サロン、BA実習室、特殊工房等の実習室を保有している。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	実践授業、現場授業を重視するとともに国際力を教育基盤の1つと考えている。	各コースで学外学習・インターンシップをカリキュラムに導入している。 また、英会話授業を全てのクラスに必須授業として導入している。	インターンシップ先の確保が困難で、企業提携等強化することで確保するようにしているがこれをさらに継続する。 英会話授業実施に当たっては、興味を持ってない学生もいるため、iPadを活用したアクティブラーニング授業展開、学習手法の構築により教育効	・2019ハンドブック ・職業実践専門課程提出資料「様式4」

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各コースで学外学習・インターンシップをカリキュラムに導入しているが、その提携先の確保が課題となっている。 また、英会話授業は、興味を持ってない学生もいるため、iPadを活用したアクティブラーニング授業展開でこれに対応中、学習手法の構築により教育効果向上を図る。	英会話授業は全クラスに導入している。 また、昼休み、放課後にネイティブ講師によるレッスン（自由参加型）等も展開している。

最終更新日付

2020年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防設備等の法令保守点検の実施と指摘事項に対して改善することを方針とする。	消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行っている。また、消防訓練を定期的に行い、教職員・学生に防災教育を行っている。	学校単位での訓練を年数回行い、参加者のみの教育に留まっている。訓練時とは別に教職員全員に対して研修を実施し、HR等で担任から学生への研修を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防用設備等点検結果報告書</li> <li>・消防訓練通報書及び訓練実施要領</li> <li>・大地震対応マニュアル〔教員用・学生用〕</li> </ul>
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学内の安全管理体制の整備及び適切な運用を行うことを方針とする。	シザーやニッパ等の刃物を扱う授業もあり、マニュアルに従い教員指導のもと扱いを確認の上、授業を実施している。	刃物以外にもヘアアイロンやドライヤー等熱源を含む機器等多数使用しているが、マニュアル等が整備できていないものもあり、調査が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シザー使用マニュアル</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行っている。また、消防訓練を定期的に行い、教職員・学生に防災教育を行っている。訓練時とは別に教職員全員に対して研修を実施し、HR等で担任から学生への研修を図る。</p> <p>刃物や熱源を使用する授業が多々あり、全体の調査が必要と考えている。</p>	

最終更新日付	2019年7月9日	記載責任者	山口 尚美
--------	-----------	-------	-------



## 基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集は、高等学校との連携、学校からの情報伝達（伝達方法：WEBサイト、電話・対面）、学内募集イベント、適正な入学選考、入学までのケアから成り立つものとして、継続的な活動を行っている。</p> <p>高等学校等接続する教育機関に対する情報提供の取組に関しては、学校の特徴、教育内容、就職などの情報を提供。また、高等学校の進路担当者と本校の進路状況など、継続的にコンタクトを取りながら共有している。</p> <p>学校募集広報活動においては、真実性・透明性・透明性・法令遵守を重んじて、入学希望者への情報提供をWEBサイト・媒体、学校案内書を通して行っている。</p> <p>学生説明会等の進学イベントでは、入学希望者に対して、学校の教育内容、授業、施設・環境、教育成果としての就職情報など、進路選択に必要な情報の提供を行っている。本校には8コースあるため、コース選択に迷う入学希望者への相談・解決する機会をさらに増やす必要がある。ちなみに20年度募集よりエステティシャンコースの募集を終了するため、進学検討者や来校済者には電話やレター送付などの個別対応を行い対応。</p> <p>なお入学選考の方法、入学形態、受験日程は募集要項に記載をしながら、説明会内で説明する時間を作り、情報の伝達を行って記載・説明どおりに実施をしている。また、受験者の実績、受験結果は学校教務課と入学前から共有し、クラス分けやコース担任の個人指導の役立てに活用している。</p> <p>学納金に関しては、学科・コースごとに発生する必要経費の計上を行い、募集要項を通して学費、教材費、諸経費として明示している。</p> <p>入学辞退者に対しては、辞退手続き規定を明示、説明を行い、各辞退者一人一人への対応・連絡を行っている。</p> <p>学生の募集と受け入れの全体に関しては、さまざまな入学に関する情報が多くあるため、入学希望者、その保護者、高等学校へ正確かつ、わかりやすくまとめながら伝える必要がある。高等学校との連携、わかりやすい学校案内書や募</p>	

最終更新日付	2019年7月9日	記載責任者	北口 博一
--------	-----------	-------	-------

## 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	進学実績のある対象校へ、本校への入学検討者がいる高等学校に対して、進学説明会を実施。本校の特色、教育内容などの情報を提供。また、高等学校の進路担当者と本校の進路状況を共有する。	高等学校における進学説明会にて、本校の特色・教育内容・施設・設備・就職実績など、他校との違いを明確にしながら説明を実施。学校選び、進路決定へ向けて、進学検討する学校の情報を収集する重要性も説明している。	大人数の進学説明会にて、個人それぞれの希望に合わせた説明が困難になる。複数のスタッフを派遣する等の対応を図り、特に個人情報収集時には相手の同意の下管理に注意して回収することを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020学校パンフレット</li> <li>・2020募集要項</li> <li>・進学説明会参加者へのアンケート</li> <li>・イベント告知DM</li> </ul>
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	学生募集活動において、入学希望者には進路決定のための十分な判断材料を提供の上、学校の情報を正しく、透明性をもって伝える。	入学希望者へ、学校の教育内容、授業、施設、就職情報など、進路選択に必要な情報をオープンキャンパス等で提供している。また、学生募集広報活動では、掲載内容や説明表現の真実性、明瞭性、公平性に配慮すると同時に、即時性を重視し、タイムリーな記事掲載を進めている。	即時性を追求する中で、広告表現のチェック体制が不十分であったため、再度、法令やコンプライアンス等の研修を実施し、全関係者でチェック体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020学校パンフレット</li> <li>・2020募集要項</li> <li>・学内説明会参加者へのアンケート</li> <li>・学校ホームページ</li> <li>・イベント告知DM</li> </ul>

中項目総括

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

学生募集活動において、高等学校、進学希望者へは情報の真実性、明瞭性、公平性、法令遵守を守って提供することに努めている。その情報も必要な内容（本校の特色、教育内容、就職等）を選択して収集し、明瞭に説明を行うようにしている。情報提供の方法として、学校のWEBサイト、オープンキャンパス等の学内説明会、学外での進学説明会を通して、情報開示または直接の説明を行い、十分な情報を提供しながら、それぞれ実施している。

左記強化のため、E-Learningにて社内研修を全員必須で受講。  
受講項目：組織風土を考える 企業倫理・コンプライアンスコース

最終更新日付

2019年7月9日

記載責任者

北口 博一

## 7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考において、受験者へは明確に選考内容、選考日程などを知らせ、試験当日の受験まで滞りなく行う体制を整える。	入学選考は全て募集要項に決められた日程と方法により、適正かつ公平な基準に基づいて選考を実施している。入試内容は書類選考と面接を通して行っている。	AO入学は「面談」、公募推薦・一般入学では「面接」の入試方法を採用しているが、面談と面接の比較基準が不明瞭。入試方法の統一が必要。	●募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考資料、入学調査アンケートなどを教務課および各コース専任教員と共有し、入学後の学生指導および授業提供に反映する。	各入学者のAO入学エントリーシート、出願書類、入試面接試験時の面接官コメント、入学前アンケート、オープンキャンパス参加時の個別ガイダンス情報をファイリングやシステムに登録し、教務課およびコース担当者が随時確認できる体制になっている。クラス作りや学生指導、授業改善等に活用している。	入学選考試験内容が面接試験のみとなっているため、事前に入学予定者の技術面の把握ができない。本人が思っている以上に技術が難しく、退学に繋がるケースもあるので、コースによっては入学選考試験に技術試験導入を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO面談シート</li> <li>・願書</li> <li>・学生カルテ</li> <li>・入学者志望理由アンケート集計</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考の方法、入学形態、受験日程は募集要項に全て記載をしている。入学選考における受験者の実績、受験結果は学校教務課と入学前から共有して、クラス分けやコース担任の個人指導の役立てに活用している。	

最終更新日付	2019年7月9日	記載責任者	北口 博一
--------	-----------	-------	-------



## 7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	学納金に関しては、学科・コースの必要経費から算定した金額を募集要項で明確に提示する。	学科・コースごとでそれぞれ発生した経費を元に学費、教材費、諸経費を算定して、募集要項や説明会を通して、情報提供をしている。	各学科・コースごとに学費の違いがはっきりあり、入学希望者の理解が必要になる。募集要項での掲載をより明確にわかりやすくする必要があ	学生募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	入学辞退者に対しては、期限内の場合納めた学納金を適正に返還する。また、返還規定の明確な説明、情報提示を行う。	学納金の返還規定や返還手続きは募集要項を通して、説明を行っている。学費返還発生時には、納めた金額を正確に把握し、入学辞退者への返還を行っている。	入学希望者増加に伴い、辞退者の割合も微増する傾向にある。入学辞退者の件数、既に振込済みの学納金の把握・管理が多くなるため、入学辞退者関連情報の正確なリスト化、迅速な対応を行っている。	学生募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金の算出に関しては、各学科・コースに合わせた必要経費を計算して、必要経費としての学費、教材費、諸経費として募集要項を通して記載をしている。入学辞退者に対しては、返還規定や辞退方法を明確に伝えて、辞退発生時での迅速な対応を進めている。	

最終更新日付	2019年7月9日	記載責任者	北口 博一
--------	-----------	-------	-------

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学園全体の収支バランスはとれており堅実な学校経営が行われている。また貸借対照表の現預金の状況から、当面の財務基盤は安定しているといえる。</li><li>・ 予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為に定められている。</li><li>・ 予算の編成は次年度在籍者数予測（収入予測）を基に、収支を見ながら事業計画と予算案を策定している。寄附行為に基づく監査は規程に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会に報告している。</li><li>・ 毎月、学校・部署ごとに予算実績のチェックを行い、決算に向けて常に経費意識を持ち予算管理を行っている。</li><li>・ 学園サポート本部において、所管部署を定め開示請求に対応できる体制を整えている。</li></ul>	

最終更新日付

2020年7月1日

記載責任者

松笠 千春



## 8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募状況の推移については、学科ごとに把握する。</li> <li>・収支状況を基に、学生募集、施設設備費等を勘案する。</li> <li>・在籍者数を予測し計画的に設備投資を行う。</li> <li>・単年度で常に収支バランスを意識し、収入を基に支出金額を決定する。</li> <li>・毎年度、基本金組入前当年度 収支差額をプラスと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数及び在学見込者数を基に予算を作成し、期中は毎月、収支予測見直しを行い、収支バランスを重視した予算の執行に注力している。</li> <li>・事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額は過去3年間プラスである。</li> <li>・貸借対照表の翌年度繰越収支差額はプラスである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は財務上の問題点はないが、社会情勢や少子化に伴い、学科ごとの収支の現状を把握し、継続的にプラスの収支差を確保していく必要がある。</li> <li>・状況に応じて、経費削減などに対応できる体制を整えて行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去3年間の資金収支計算書</li> <li>・過去3年間の事業活動収支計算書</li> <li>・過去3年間の財産目録</li> <li>・過去3年間の貸借対照表</li> </ul>
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部で学園全体、また学校ごとの計算書類、財務分析 資料を作成し、役員・運営 責任者に対して提供する。</li> <li>・収支については、予算実績対比ならびに、前年度実績との対比を行い、分析の資料として精度を高める。</li> <li>・キャッシュフローの状況を示す資料を作成する。</li> <li>・コスト管理に注力し、適切な 処理を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近3年間の収支状況（資金収支・事業活動収支）による財務分析を行っている。</li> <li>・直近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っている。</li> <li>・教育研究費比率、人件費比率は適切な数値になるよう注意を払っている。</li> <li>・毎月の収支執行状況を学校責任者が確認し、学園全体の収支の推移が把握できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収支の厳しい学科もあり、行事ごとや学科、コースごとの収支を把握し学校運営に反映できるシステムを構築する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去3年間の学校法人等基本調査票</li> <li>・過去3年間の基礎資料調査計算書（大阪府私学課提出）</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学園全体として、教育活動の充実及び学校経営の両立を目指して行く。</li> <li>・ 2019年度まで5年連続で学生数、授業料収入が増加しており、当面の財務基盤は健全である。 但し、2020年度については、社会情勢により募集環境も厳しさを増しているため、今後も継続的にプラスの収支差を確保していけるよう経営基盤の強化に注力する必要がある。</li> <li>・ 経費削減に努め、増収増益の財務基盤を築いて行く。</li> <li>・ 学生数の増加により教室が不足しており、教室・実習室の稼働率の更なる向上を目指す。</li> <li>・ 学校施設、設備については、定期的、計画的に入換えを行っている。</li> <li>・ 経費支出については、学生数の増加に伴い教職員数も増加傾向にあり人件費が増加しているため、将来を見据えて効率化を図っていく。</li> <li>・ 今後の18歳人口の減少を見据え留学生募集への注力及び国際状況の変化に柔軟に対応し、教育実績の向上による更なる競争力の強化により、一定数の在籍者数を確保し続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年度に世界的に影響を受けたコロナの関係等も踏まえ今後も安定した募集状況が続くよう、教育内容、学習環境（オンライン環境含め）学生サービスの充実を図る。</li> </ul>

最終更新日付	2020年7月1日	記載責任者	松笠 千春
--------	-----------	-------	-------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画（目標）を基に、単年度の教育目標と新規事業（設備）計画を立案する。</li> <li>・次年度収入予測を基に収支を計算し新規事業と既存事業の調整を行い確定予算と</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図って作成している。</li> <li>・予算の編成過程及び決定過程はスケジュールを立てて実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標と運営（経営）目標の両面を考慮した予算を策定していく。</li> <li>・予算立案時に、予算配分の優先順位を勘案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算書（当該年度及び前年度分）</li> </ul>
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算は補助科目ごとに月別支出金額を算出し、それを合計して作成する。</li> <li>・予算と同時に作成する経費内訳書に、月別の予算執行計画を記入し、それを基に毎月、経費元帳と突き合わせて予算執行管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間スケジュールにより、予算の執行計画を策定している。</li> <li>・予算と決算に大きな乖離を生じないように注意を払っている。</li> <li>・予算規程、経理規程を整備していく予定である。</li> <li>・予算執行にあたり、毎月、実績チェックならびに、予測値の変更修正を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算外案件が発生した場合は、金額、内容により、稟議書にて決裁を仰ぐ。その上で、予備費から充当するなどの措置をとる。</li> <li>・執行状況は理事会、評議員会に報告し、承認をうけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算実績対比表</li> <li>・経費内訳書</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録を作成し財務内容を把握している。これとは別に、月々の予算実績対比表を作成し事業計画および予算の進捗状況を検証し、決算に向けて予算実績管理を行っている。また、その資料は、次年度以降の計画、予算作成の資料としている。</li> <li>・予算および収支計画については、学生生徒納付金収入などの収入予定金額を試算した上で、学校ごとに事業計画を立案し、それらの計画案を精査した上で、予算案を作成する。そして全体調整の後、評議員会の意見を聞き理事会の承認を得て予算計画に沿った予算執行が取り行われる。</li> <li>・予算管理システムにより、各部署予算の執行状況及びその内容等を毎月確認している。</li> <li>・学費回収状況については、毎月入金確認を行い必要に応じた対応を行っている。</li> <li>・予算管理システムは2016年度から新会計基準対応へ変更し、適切な予算管理が実施できている。</li> </ul>		

最終更新日付	2020年7月1日	記載責任者	松笠 千春
--------	-----------	-------	-------

## 8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校法及び寄附行為に基づき監査を実施し、会計年度終了後2カ月以内に監事が監査報告書を作成し理事会、評議員会に報告をしている。</li> <li>・監査時における改善意見や指摘は受けていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去3年間の監査報告書</li> <li>・報告審議理事会議事録</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄附行為に基づき専任された2名の外部監事が、事業報告書及び計算書類（資金終始計算書、事業活動終始計算書、貸借対照表、財産目録）により財務会計監査を実施している。</li> <li>・公認会計士の1名の監事に対して、定期的に会計処理および財務状況についての報告を行っており、指摘を受けたものについてはその都度訂正を行っている。</li> <li>・監事による監査は、毎年決算処理が完了する5月に実施し、会計年度終了後2ヵ月以内に監事作成の監査報告書を理事会および評議員会に提出し最終的に承認を得ている。</li> </ul>	

最終更新日付

2020年7月1日

記載責任者

松笠 千春



## 8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	・私立学校法の規程に基づく財務情報公開を行う。	・公開が義務づけられている収支計算書類、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書を毎年5月末までに作成し6月中に学園ホームページに公開すると共に、財務公開実績を記録している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書</li> <li>・計算書類公開実績</li> <li>・学校ホームページ</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・私立学校法第47条に基づく財務情報公開については、会計年度終了後2ヵ月以内に資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告及び監査報告書を作成し、学校の利害関係人からの公開請求に対応できる体制を整えている。また、毎年会計年度終了後3ヵ月以内に山口学園Webサイト上で財務諸表の公開を実施している。	

最終更新日付	2020年7月1日	記載責任者	松笠 千春
--------	-----------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育目的に「本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、情報処理教育を通じて高度な技術力・柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、企業及び社会が必要とする人材の育成を目的とする。」とある通り、関係法令及び専修学校設置基準、大阪府審査基準、寄附行為等の学園規程を遵守して学校運営を行っている。</p> <p>法令遵守については学園サポート本部を担当部署とし、顧問弁護士、会計士、社会保険労務士、学校医、産業医と連携し法令の制定、改定などに対応している。</p> <p>個人情報保護に関する取り組みは個人情報保護に関する基本方針（2005年制定）、個人情報管理規定（2019年改訂）個人情報取扱マニュアル（2017年改訂）個人情報開示申込等に関するマニュアル（2005年制定）を定め学内サイトに掲示し運用を行っている。教職員に対しては学园内グループウェアを使用し啓発情報を発信している。</p> <p>在校生に対しては個人情報取り扱い方針を全学生に配付しているHANDBOOKに記載して告知している。対外的には学園ホームページにプライバシーポリシーを公開している。</p>	

最終更新日付

2020年7月8日

記載責任者

余村 博文

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	法令を遵守し社会的に評価される学校運営を行い、学園運営目標2項にある「教職員が誇りを共有し、且つ、安全で健康そして楽しく働きやすい環境を有する専門学校づくりをめざす。」を実現する。	関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等を適切に行っている。 学校運営に必要な規則・規程等を順次整備しており、適切な運用を心掛けている。 ハラスメント防止規程、ハラスメント相談窓口を定め運用を開始している。	コンプライアンスに関する相談窓口の開設を検討する。	学則改正等の届出資料 理事会・評議員会議事録 学則及び諸規程 ハラスメント防止規程 ストレスチェック制度実施規程 衛生委員会規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校教育法や専修学校設置基準に定められている規則を遵守する共に、私立専修学校・各種学校事務の手引きをもとに、適切な運用と関係省庁への書類提出を行っている。</p> <p>また、資格の認定に関わる学科においては、認定省庁からの指導と法令を遵守し、資格取得に必要な科目、授業時間数、教員を確保している。</p> <p>法令遵守に関する教職員・学生等に対する啓蒙活動については、職員向けのeラーニングコンテンツでコンプライアンスの受講を促進する他に、ハラスメント防止規定の整備、相談窓口の設置及び告知などの対応を行っている。衛生委員会も毎月開催し従業員の職場環境改善についての活動を行っている。</p>	職員向けeラーニングコンテンツのコンプライアンスに関する講座受講を促進し、2020年6月までに41名（約35%）が受講を完了した。

最終更新日付

2020年7月8日

記載責任者

余村 博文



## 9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	法令に則り個人情報を適切に管理する。保有する個人情報は必要最低限とし、可能な限り情報漏洩リスクを低減させる。	<p>個人情報保護に関する取り組みは個人情報保護に関する基本方針（2005年制定）、個人情報管理規定（2019年改訂）個人情報取扱マニュアル（2017年改訂）個人情報開示申込等に関するマニュアル（2005年制定）を定め学内サイトに掲示し運用を行っている。</p> <p>対外的な広報サイトについては、個人情報の入力が必要なページではSSL暗号通信方式を採用。学内向けのサイトについては一部SSL未対応であるがDMZ上にサーバーを配置し外部からの攻撃への対策としている。</p> <p>教職員に対し個人情報管理に関する啓発活動として全員配布の学園手帳に情報提供と注意喚起を行っている。在校生に対しては個人情報取り扱い方針を全学生に配付している。</p>	個人情報取り扱いマニュアルを2017年2月に改定しているが、現状との不整合が発生しており情報セキュリティ委員会で審議を行う予定である。個人データを蓄積した電磁記録の取扱いについては文書管理規定を準用し、周知徹底を行う。	<p>個人情報保護に関する基本方針</p> <p>個人情報管理規定</p> <p>個人情報取り扱いマニュアル</p> <p>個人情報開示申込等に関するマニュアル</p> <p>マイナンバー受領手順</p> <p>プライバシーポリシー</p> <p>文書管理規程</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報保護については「個人情報保護に関する基本方針（2005年制定）」を制定し、学内サイトに公開しこの方針に則って運用している。</p> <p>2019年に個人情報管理規定の改定を行った。2020年度で個人情報取扱マニュアルの改訂を行う予定である。また、マイナンバーの施行に合わせ、2015年に「マイナンバー受領手順」を策定し、周知徹底するため学園全職員対象に説明会を行った。</p> <p>文書管理規程に電子データを含む学園の文書の保管期間を定めており、個人情報を含む文書の保存期間の周知を行い学園全体で適切な管理運営を推進する。</p>	

最終更新日付	2020年7月8日	記載責任者	余村 博文
--------	-----------	-------	-------

## 9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己評価委員会を設置し、学校の課題抽出とその対策案を講じることを方針とする。	自己評価委員会を校長、副校長、部署責任者で組織し、定例会を経て毎年1回自己点検報告書を作成している。	自己評価委員会は部署責任者で構成されているが、現場で指導に当たる講師等の意見が反映されにくい点があり、メンバーに講師を加えて対応中。さらなる意見の反映を目標とする。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	毎年自己点検報告書を作成しそれを公開することを方針とする。	作成した自己点検報告書はホームページ上で毎年1回公開している。	自己点検報告書のフォームでは課題の抽出、改善策、資料の状況等に不明確な点があり、改善したフォームで継続している。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	職業実践専門課程に準拠した学校関係者評価委員会を組織し学校評価を実施することを方針とする。	職業実践専門課程に準拠した学校関係者評価委員会を年間2回開催し、学校の評価から課題の抽出、対策案の検討、改善を図っている。	学校関係者評価委員会での意見交換活性化のために授業状況・施設・設備等の共有を図る。また、第三者評価を受ける体制を目指す。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価委員会での討議結果を公開することを方針とする。	年間2回実施した学校関係者評価委員会の討議結果をホームページ上に公開している。	議事録は分かりにくい点もあり、議事の準備/整理等さらに工夫が必要である。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自己評価委員会、学校関係者評価委員会を設置し、自己点検、学校評価を実施し、結果をホームページ上で公開している。メンバーの見直し・追加、報告書のフォーム等改善を加えながら、第三者評価を受ける体制を目指す。</p>	<p>自己点検報告書のフォームでは課題の抽出、改善策、資料の状況等に不明確な点があり、改善したフォームで継続中。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------



## 9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校の概要、教育内容等の情報を積極的に公開できる体制を目指す。	職業実践専門課程の規定に基づき、ホームページ上に学校概要、教育内容、カリキュラム等を公開している。また、学生生活が分かるような情報を日々掲載している。	学生に公開している情報で、一般に公開されない内容も多々あり、さらに公開できる制度を目指す。	・2019職業実践専門課程提出資料「様式4」

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の規定に基づき、ホームページ上に学校概要、教育内容、カリキュラム等を公開している。また、学生生活が分かるような情報を日々掲載している。 一方で一般に公開されない内容も多々あり、さらに公開できる制度を目指す。	学生の生活を多数の教員がまとめて、日々ホームページ上に掲載する仕組みがあり、絶えず更新されている。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 基準10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園運営本部「ECC社会貢献センター」と連携し、日々の学びを地域社会において社会貢献活動を行う学習プログラムである「サービス・ラーニング」を授業として取り入れ、全てのコースで在学中に必ず1度以上実施している。</p> <p>授業以外での学生のボランティア活動への参加についても奨励しており、ボランティア情報を積極的に学生へ発信している。最近では企業や団体からの依頼に応じてコース特性や専門性を生かしたボランティアも増えており、大阪市北区の地域との連携により各種イベントや施設でのヘアメイクやネイル、エステサービスを行っている。</p>	<p>国際交流を強化しており、海外からのお客様・クライアントに対して自然に積極的にコミュニケーションができるよう、親交を通しながら多文化・異文化理解の推進を図り、国際力をアップする学習プログラムや制度を設けている。留学生との交流環境に関しては、コロナ感染の状況の中、今後展開するためにはさらなる工夫が必要で現在構築中。</p>

最終更新日付

2019年7月9日

記載責任者

辻浦 誠司



## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	コース特性や専門性を生かし、地域課題を解決していく学習プログラム「サービス・ラーニング」を授業として取り入れ、全てのコースで在学中に必ず1度以上実施することを方針とする。	<p>活動事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアメイクアーティストコース：高齢者施設入居者やデイサービス利用者の方へメイクサービスを行い、美容の力で元気になってもらえるよう活動</li> <li>・ビューディアドバイザーコース：フィリピンの貧困問題解決に取り組む企業の商品を学校イベントで販売。など</li> </ul>	コース特性や専門性を生かした社会貢献・地域貢献を強化して取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ECC社会貢献・国際交流センター情報誌</li> <li>・各コース実施報告書類</li> </ul>

<p>10-36-2 国際交流に取り組んでいるか</p>	<p>海外からのお客様・クライアントに対して自然に積極的にコミュニケーションができるよう、親交を通しながら多文化・異文化理解の推進を図ることを目指す。</p>	<p>海外語学留学（フィリピン・英国・韓国）及び海外研修（米国LA/NY・英国）等の企画運営を学内で行っており、多数の学生を海外に派遣している。校内には英会話交流スペースを設けており、ネイティブ講師と触れ合え英語を楽しく学べるプログラムを用意。また当学園内の日本語学科の留学生とコミュニケーションをとる制度（バディプログラム）もあり、日常的に交流を深め、国際力アップにつながる機会を設けている。また、留学生とチームを</p>	<p>留学生との交流環境は整っているが、利用する学生がまだまだ少ない状況である。グローバル化が進む現在の社会環境において、学生時代に海外留学生との交流は大変貴重な経験になることを今以上に伝えていく必要がある。コロナ感染の状況の中、今後展開するためにはさらなる工夫が必要で現在構築中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度学校案内</li> <li>・バディプログラム案内</li> <li>・留学生交流プログラムの案内</li> </ul>
------------------------------	---	--	---	--

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日々の学びを地域社会において社会貢献活動を行う学習プログラムである「サービス・ラーニング」を授業として取り入れ、全てのコースで在学中に必ず1度以上実施している。</p> <p>留学生との交流環境に関しては、コロナ感染の状況の中、今後展開するためにはさらなる工夫が必要で現在構築中。</p>	<p>国際交流では国際力アップにつながるプログラムや制度を多く設けている。</p>

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------

## 10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	授業以外での学生のボランティア活動への参加を奨励。学園運営本部「ECC社会貢献センター」と連携し、ボランティア情報を積極的に学生へ発信することを方針とする。	コース特性や専門性を活かしたボランティアを特に奨励しており、大阪市北区の地域との連携により各種イベントや施設でのヘアメイクやネイル、エステサービスを行っている。	企業や団体からの依頼に応じてコース特性や専門性を活かしたボランティア活動や、地域と連携したボランティア活動を強化したい。	・ECC社会貢献・国際交流センター情報誌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コース特性や専門性を生かしたボランティアに学生が積極的に取り組んでいる。	地域との連携により各種イベントや施設での美容サービスを行っている。

最終更新日付	2020年7月9日	記載責任者	辻浦 誠司
--------	-----------	-------	-------